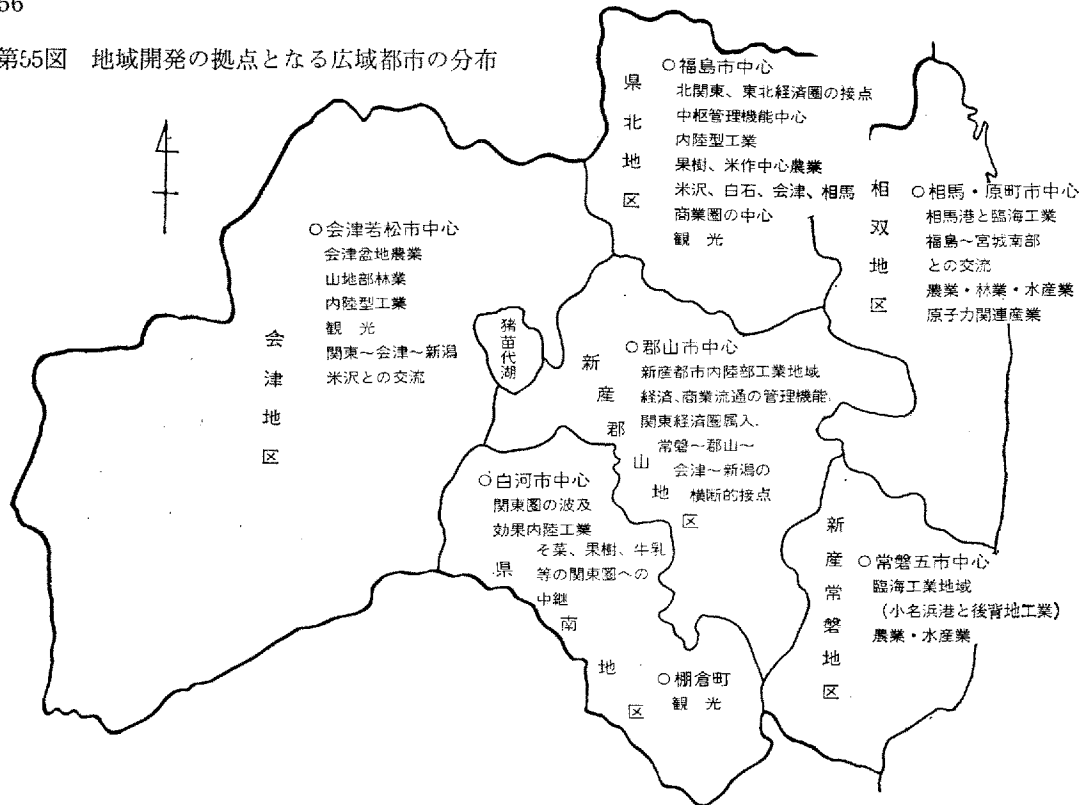


第55図 地域開発の拠点となる広域都市の分布



広域都市は、交通機関の発達、道路の整備などによって地域の経済、文化の中心となって、大量の人的、物的交流が増加することになる。

産業の発展と生産の合理化によって労働の質的变化がもたらされ、人間は生産機構のなかの歯車的存在となり、全体的な見通しを失って不安定な心理状態におちいる層が多くなる。また、産業の合理化は、管理事務やセールスのような直接生産にたずさわらない割合に知的水準の高い精神労働者も増加すると考えられる。これらの層は、生産手段と全体的見通し、合理的な人間関係からも切りはなされ、生産に向けていた価値志向から、消費に志向し、職場は単なるサラリーを得る手段といった考え方にかわってきよう。

マス・コミの宣伝、広告による大量消費は、この傾向をさらにつよめることになり、さきにもたようにマス・コミの普及は、人間を平均し、規格化する傾向などが見られ、これらが要因となって、いわゆる大衆社会が拡大され、このような組織に入らなければいけないような人間が見いだされることになる。こうした人間疎外現象が発生することが考えられる。

これらは、都市部の盛り場やデパート、娯楽場、スポーツセンター、観光地などに多く見られているが、この傾向は、産業の発展にともなってさらに激化してくるものと考えられる。

3 伝統的社会的近代化

工業化の進行によって、伝統的な社会は、近代化の激浪にさらされる。農業地域を例として考えてみたい。